

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	電気通信工学科						
科目名	応用数学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	選択科目(組込みシステムコース)・選択科目(電気エネルギーコース)・選択科目(情報システムコース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた関数が正則であるかどうかを判定する.</li> <li>・関数の特異点における留数を計算する.</li> <li>・留数の方法で定積分を計算する.</li> <li>・基本的な関数のラプラス変換を求める.</li> <li>・ラプラス変換を用いて2階の線形微分方程式を解く.</li> </ul>						
日程と内容	9月18日 導入・複素関数とは、コーシー、リーマンの関係式 9月25日 正則関数の例・解析接続、調和関数 10月 2日 複素積分 10月 9日 コーシーの積分定理とその応用 10月16日 コーシーの積分公式とその応用 10月23日 ローラン展開・留数定理 10月30日 留数定理の応用 11月 6日 フーリエ級数・フーリエ変換 11月13日 フーリエの積分定理・デルタ関数 11月20日 フーリエ変換の応用(1) 11月27日 フーリエ変換の応用(2) 12月 4日 ラプラス変換 12月11日 ラプラス変換の応用 12月18日 総合復習 1月15日 定期試験 1月22日 解析数学の課題						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	40%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	到達目標は授業をとおしてすべてカバーすることができた。また、学生の到達度は、課題と定期試験によって確認できた。						
反省点	正式な履修登録者が1名という状況の中で講義が進められた。キャップ制のため登録をせずに聴講だけをした学生もいたので、かろうじてクラスの形態が保たれたというのが実情である。						
来年度の計画	今年度からの変更点はとくにない。						
授業評価アンケートに対するコメント	講義の内容が難しかったとの評価であるが、講義がカバーする内容ではこれ以上程度を下げると数学的な理屈を省略してしまう恐れがある。また、交流回路の過渡現象を扱うには、この程度の内容が最低限必要となるはずである。						
履修登録者数	1名	定期試験 受験者数	1名	合格者数	1名	合格率	100%